

フエ市防災教育支援事業の1年

JICA（国際協力機構）の草の根技術協力の一環として、3年間で西条市の12歳教育をベトナム・フエ市に合った防災教育プログラムとして開発・実践する「フエ市防災教育支援事業」の今年度の活動を紹介します。

大雨が多く、毎年風水害に悩まされるフエ市は、平成11年に大洪水で多くの犠牲を出し、経済的にも大きな被害を受けました。ベトナム政府は災害に関して、大規模なインフラ整備や政策に加え、最近では「教育・訓練」による対策を重視しています。西条市はこれまで築き上げてきた防災教育の経験が、地形の似たフエ市で役に立つと考えています。

■まずはお互いを知ることから

5月、大越副市長ら6名の職員がフエ市を訪れ、事業開始に向けた協議会を開催。フエ市人民委員会、フエ市教育訓練局、フエ市国際協力センター、防災教育のモデル校となる2つの中学校、フエ農林大学が参加し、意見交換が行われました。同時に現地の実情に合わせた効果的なプログラムを展開していくため、市内、中学校の視察を行いました。

8月、フエ市のタイン副市長と防災や教育の関係者の5名が当市を訪問、12歳教育の取り組みの一つである子ども防災キャンプを体験し、学校関係者との協議を行いました。

■実践！タウンウォッチング

8月末、12歳教育実行委員会の教員をはじめとする10名の関係者がフエ市を訪問し、モデル校で防災の視点で町の中にある危険なものや、防災に役に立つものを探して歩くタウンウォッチングを行いました。

町歩き後には、地域の危険な場所などをまとめた地図を作り、グループごとに発表会を開催。ベトナムの学校では、参加体験型の授業は珍しく、子どもたちも楽しみながら取り組むことができました。



地域の危険な場所などをまとめる地図作り

■クラブ結成、新たな取り組みも

9月にはモデル校で防災教育クラブが結成され、12歳教育を参考にしながらフエ市版防災教育が展開されていく予定です。最初の活動として、10月から12月の雨季に『雨季日記』という観察日記がつけられています。これは、雨季の生活状況を把握し、防災の視点で生活を見直すことにより生徒の防災意識を高めることを目的としています。

また現地の要望で水泳の機会を提供し、緊急時に役立つ着衣水泳などを教える水泳教室を計画しています。

■2年目へ向けて

今後は、初年度の結果をふまえ、現地と情報や経験を共有しながら、フエ市との関係者が主体となり継続的に実践していくことができる体系を築いていく予定です。

この事業を契機として、産業・経済など多分野にわたる交流へと繋げることにより、西条・フエ両市のさらなる連携・発展が期待されます。



タウンウォッチングの様子



フエウォッチング

Chúc mừng năm mới!! (チュック・ムン・ナム・モイ)

ベトナム語で「新年明けましておめでとうございます」からスタートしてみました。ベトナムでは、新暦に基づいて日常生活が送られています。お正月をはじめとする大半の伝統行事は旧暦に従って行われています。今年の旧正月（テト）は、1月23日なので、今頃、新年を迎える準備で大忙しといったところでしょうか。ベトナム人はよく干支の話題で盛り上がります。日本とベトナムでは、この干支の動物の顔ぶれが少し異なっていて、昨年の干支は、日本では「うさぎ」でしたが、ベトナムでは「猫」になります。今年の干支である「龍」は神聖な動物として、フエの王宮のシンボルともなっています。暦や干支など、日本と異なることはあるものの、新年は家族一緒に迎え、家族の絆を深め、新しい年の幸せを願う気持ちは変わりません。今年もベトナムを通して出会う新しい人・風景・時間・気持ちなど、お伝えしていければと思っています。 フエ市防災教育支援事業コーディネーター 中村範子



王宮内の至る所にシンボルである龍が飾られている